

海運の重要性を学校教育の場で
～東京コンテナ・ターミナルおよび東京港船上見学会を実施～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体等と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、10月19日（金）に、日本郵船・東京都港湾局の協力を得て、東京コンテナ・ターミナルおよび東京港船上見学会を中野区の小学5年生約120名を対象に実施しました。

当日は、まず日本郵船 東京コンテナ・ターミナルにて、映像資料での学習やターミナル構内の見学等を行いました。



映像資料からは、世界・日本におけるコンテナ輸送の役割や、東京港が首都圏の生活・産業活動を支える玄関口として機能していること等を学んだほか、同社社員からターミナルの概要・商船の種類等の説明が行われました。

また、同施設ビルの屋上から、ターミナル内のコンテナがクレーンによって運ばれる様子等を見学するとともに、構内に蔵置されている様々な種類のコンテナについて説明を受けました。さらに、バスにてターミナル内を周回し、ガントリークレーンの下をくぐりその大きさを体感することができたほか、コンテナ立体格納庫からトラックにコンテナが移される様子を間近に見学することができました。

生徒からは「ターミナルにはコンテナはいくつあるの?」「コンテナを船に積む順番は決まっているの?」「コンテナの中身で一番多いのは?」「1日に何隻の船が港に来るの?」等様々な質問がなされました。

ターミナル見学後は、社会科見学船「こすもす」にて海側から東京港を見学し、海運・港の役割について理解を深めることができました。

当協会は引き続き会員会社等と連携し、四面環海のわが国にとって欠かすことのできない海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

